

令和元年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

⑦課題:機械収穫適性に優れ秋播き小麦の前作物に適した早生小豆品種開発のためのDNAマーカーの開発と新品種導入に対する農家意向調査(30~2年度)
代表者:帯広畜産大学 助教 森 正彦

目的

機械収穫適性に優れ秋播き小麦の前作物に適した早生小豆品種開発のためのDNAマーカーの開発と新品種導入に対する農家意向調査を実施する。

成果

①早生・普通胚軸品種／系統と中生・長胚軸系統の交配後代における遺伝解析

・昨年度とは異なった交配系統においても、昨年度と同様に胚軸長と成熟期との間には関係性がないことが明らかになり、改めて早生・長胚軸性個体作出の可能性が示唆された。

②早生性をもつ系統を選抜するためのDNAマーカーの開発

・十交1641で、第4染色体に座乗するDNAマーカーが成熟日数に関与することがわかった。

③品種開発時の波及効果検証

・早生性と機械収穫適性を有する小豆新品種導入に関しては、前後作物との競合性の回避、労働力の削減といった点からの導入動機が確認できた。

新品種導入の動機・制限要因

	小規模経営	中規模経営	大規模経営
動機要因	機械収穫ロスの軽減 気候変動への対応品種 収量安定化 販売価格の適正化	前作と重複しない品種 収穫ロス軽減 品種による価格適正化	小麦との重複回避 作付時期の安定化 販売価格の向上
制限要因	価格が不安定 機械設備の新規導入 後継者不在	価格の低下 機械設備の更新・導入	価格の低下 販売経路の新規開拓